

南シナ海における諸問題

—国際会議「東アジアの海域における安全保障問題」における論議から—



上野 英詞
(海洋政策研究財団研究員)

はじめに

- 1 南シナ海問題の重要性
- 2 中国の狙い
- 3 米国の対応
- 4 ASEANの対応

おわりに

はじめに

海洋政策研究財団では、2010年度から2012年度までの3年計画で、「東アジア海域の海洋安全保障環境」研究事業を実施している¹。2010年度は、主として東シナ海および南シナ海に焦点を当て、中国の海洋への関心と国家方針および中国海軍のドクトリン、南シナ海を巡る中国とASEANとの関係、米国の関心について調査研究を実施した。2011年度は、対象海域を西太平洋とインド洋東部にまで広げ、東アジアの海域の地政学的特徴、中国と米国の海洋戦略が安全保障環境に及ぼす影響、中台の状況と朝鮮半島情勢が安全保障環境に及ぼす影響、インドの海洋戦略が中国と米国の海洋戦略に及ぼす影響について調査研究を実施した。そして最終年度である2012年度は、これまでの2年間の調査研究を総括するとともに、同様の研究を実施する海外の研究組織や研究者と意見を交わし研究結果を補強し、その成果を冊子として纏め、内外に提言として発信すべく作業を進めているところである。

この2年間の調査研究では、国内コアメンバーによる数次にわたる研

究会と2回の国際会議を実施した。第1回国際会議は2011年2月に東京で、第2回会議は2012年2月にシンガポールで開催した。本稿では、第2回の国際会議における、南シナ海の島嶼の領有権問題を巡る論議の概要を紹介する²。なお、国際会議はチャタムハウス・ルールで実施されたため、本稿では発言者を特定しない。

1 南シナ海問題の重要性

近年、東アジアの海域はその戦略的重要性を高めている。この海域の戦略的価値を高めている主たる要因は、第1に海洋エネルギー資源へのアクセス、第2に南シナ海や東シナ海における領有権紛争、そして第3に域内各国の海軍力の増強である。中国を含め、域内各国は、海空軍力の増強に力を入れている。

会議では、特に南シナ海問題は、現在もそして今後もアジア太平洋地域における安全保障上の最大の課題であるとして、以下の指摘があった。第1に、ASEANと中国が南シナ海における信頼醸成措置の構築や法的拘束力を持つ「行動規範」の実現に向けて努力しているが、これらは、南シナ海問題の核心である、領有権問題、漁業権や天然資源へのアクセス、そして域内各国の軍事力増強にほとんど影響を与えそうにないこと。第2に、南シナ海問題の政治的、法的解決が困難で、主権問題のwin-win解決を目指す政治的意志が見られないこと。そして第3に、アジアにおける米中の地政学的抗争の萌芽が、既に複雑困難な問題に、新たな困難をもたらしていること。

2 中国の狙い

南シナ海問題の主要プレイヤーは中国であり、南シナ海問題の基調を形成してきた。最近の中国の南シナ海における行動については、会議では、以下のような議論があった。まず、中国が近年、南シナ海で強硬な行動を取ってきた背景として、以下の諸点が指摘された。第1に、中国

1 本研究事業では、「東アジア海域」とは概ね、小笠原列島とマリアナ諸島を結ぶ経度線から以西の海域とし、主として西太平洋、東シナ海、南シナ海、およびインド洋東部を対象としている。

2 第2回会議では、南シナ海問題で論議を呼ぶもう1つの問題である、EEZの法的側面、即ち沿岸国のEEZ内での他国の海軍艦艇と軍用機による軍事活動と情報収集活動を巡る各国の見解の相違、特に米中のそれについても論議されたが、本稿では紙幅の都合で割愛した。